

(別紙様式)

(A3判横)

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立坂戸高等学校)

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校
--------	------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上を図る教科指導の充実 2 高い志を育む進路指導の充実 3 リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実 4 開かれた魅力ある学校づくりの推進
------	-----------------------------------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 2 5 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>①生徒の自学自習力の取組が進み、朝自習を行う生徒や家庭学習時間が増加する生徒がいる一方、学習習慣が定着しない生徒も増加し、二極化の傾向がみられる。</p> <p>②予習を前提とした授業を行い、予習→質の高い授業→復習のサイクルを実践し、一定程度の成果がある。学年、教科によるばらつきをなくし学校全体の取組として定着させる必要がある。</p> <p>③質の高い授業を創造するため、授業改善を進める。自主的な授業研究と組織的研修を組み合わせた取組を実施する必要がある。</p>	<p>①自学自習力をさらに進化させるとともに、全体の底上げを進め学習習慣のさらなる定着を図る。</p> <p>②質の高い授業の展開を推進、拡充する。</p> <p>③自主的な授業研究と組織的研修の組み合わせを推進する。</p>	<p>①学校生活手帳を活用した時間管理 ①朝・放課後自習、隙間時間学習の奨励 ①19:30 完全下校の徹底 ②1年生学習OTによる予習・復習法の徹底 ②ALやICT活用など新たな手法による授業改善 ②予習→質の高い授業→復習のサイクルの定着 ②授業評価アンケートや学習状況調査、実力テストの分析を組み合わせて生徒の学力を把握 ③若手教員を核に自主授業研究会を充実 ③教科枠を超えた自主研修会への拡大 ③指導法や教材の共有化 ③全教科の定期考査の統一化 ③県の事業への取組 ③「質の高い学校教育の推進に係る調査研究」「キャリア育成プログラム」「学校間レビュー」等</p>	<p>①学習時間量調査を年2回実施し、各学年で学年数以上の学習時間量を目指す。 ①朝自習に取り組む生徒数を調査 ②1年生学習OTの実施 ②授業参観において生徒の予習・復習状況を確認、参観後授業改善協議を実施 ②授業・学校評価アンケート等で授業理解度と学校満足度8割5分以上を目指す。 ③授業公開を年3回以上実施。 ③自主的な授業研究の発展 ③組織的な授業改善の研修会の実施 ③全教科定期考査の統一化</p>	<p>学習指導は、概ね目標を達成した。</p> <p>①120名ほどの生徒が朝自習に取り組むほか、放課後も自習室を利用する生徒が増え、隙間時間を活用した学習習慣が定着した。</p> <p>②1年生学習リレーションをはじめ各学年集会等で学習の仕方を丁寧に指導した結果、生徒の学習意欲に改善が見られた。授業理解度は8割8分に到達した。</p> <p>③若手教員を中心に、教科を問わず定期的な授業公開を自主的に実施した。</p> <p>③授業公開を近隣中学校教員にも上げるとともに、県の諸事業を連携した授業研究会を実施した。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①時期によっては家庭学習時間がまだ不十分のところがあり、改善の余地がある。</p> <p>②予習→質の高い授業→復習のサイクルのさらなる定着を図る</p> <p>③校内外の自主的な授業公開、研究協議を拡充し、さらなる授業改善を図る。</p> <p>③新校務支援システムの活用により成績処理等の効率化を進める。</p> <p>③高大接続改革、新学習指導要領を踏まえ、活発な議論を積み重ねながらカリキュラムメントを推進する。</p>
2	<p>①高い志を育み、生徒個々の確実な進路実現を進めるためには、これまで以上に進路指導部と学年の連携を進めるとともに、学年・教科・部顧問等の多方面から生徒を指導・支援する必要がある。</p> <p>②高い志の実現のために求められる学力をこれまで以上に身につけさせるため、進学指導体制を拡充させる。</p> <p>③生徒個々の高い志を育むためにも、保護者との連携を強める必要がある。昨年度始めた保護者のための進路勉強会「子どもの進学を考える会」を継続・発展・定着させる。</p>	<p>①進路指導部・学年・教科・部顧問等が連携した進路指導体制の確立を図る。</p> <p>②生徒の「第一希望宣言」を実現するための進学指導体制の拡充を目指す。</p> <p>③保護者のための進路勉強会の継続・発展・定着を進める。</p>	<p>①各教科でｽﾀｯﾌﾟや実力テスト結果を分析し指導方法を改善すると共に、学年及び部顧問とも連携を深め、多方面から生徒の指導・支援を行う。 ①大学模擬授業・大学見学会を継続実施する。 ①ｽﾀｯﾌﾟの結果分析会を学年ごとに複数開催し、個別進路指導に活用する。 ①社会人講演会を継続実施する。 ②進路目標校を絞り込み、学習指導・進路指導を焦点化する。 ②授業アンケートを2回実施し、学習時間・理解度等を分析する。 ②朝・放課後・長期休業中のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ進学補講を拡充する。 ②保護者のための進路勉強会「子どもの進学を考える会」を実施する。</p>	<p>①センター試験の受験者割合9割、国公立大20人以上。中堅以上の私立大学60人以上の合格を目指す。 ①②進路目標校を中堅国公立大学、中堅私立大学に設定し、学習指導・進路指導を目標校に焦点化する。 ①ｽﾀｯﾌﾟ結果分析会を複数回実施する。 ②大学別進路説明会を実施し、大学別進学補講の導入を検討する。 ②実力テストの経年変化を検証する。 ②授業アンケートの経年変化を検証し、授業理解度・学校満足度8割5分以上を目指す。 ③「子どもの進学を考える会」を各学年2回以上開催する。</p>	<p>進路指導は、校内の連携が強化され概ね目標を達成した。</p> <p>①センター試験は9割の生徒が受験。(受験件数は未確定)</p> <p>①進路指導行事を効果的に実施することとおして、進路指導部・学年・教科が連携して進路指導にあたることができた。</p> <p>②学校満足度は昨年度より向上しほぼ8割5分となった。</p> <p>②実力テストについて成績変移の分析会とともに、出題内容の教科による分析を実施した。</p> <p>③第1回「子ども進学を考える会」は305名の参加(第2回は2月)。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①国公立大学及び難関私大への進学を実現させるためには、低学年からの計画的な指導が必要である。</p> <p>①成績上位層の人数を減少させないよう、きめ細かい指導と学習習慣の定着が必要である。</p> <p>②高大接続改革を踏まえ、最新情報を把握し、的確な指導体制を構築する。</p> <p>②卒業生のアンケート結果を在校生の指導及び進路指導に活用する。</p> <p>③「子どもの進学を考える会」の完成年度を迎え、一層の理解と協力を保護者に求め、高い目標の進路実現を図る。</p>
3	<p>①生徒会行事の総括・運営マニュアルの整備を行いﾘｰﾀﾞｰｯﾌﾟ育成を進めてきたが、生徒主体の生徒会行事運営のためには改善の余地がある。生徒会役員・実行委員の後継者育成をさらに発展させる必要がある。</p> <p>②学習と部活動の両立をさらに進める必要がある。学校生活手帳を活用した時間管理、濃密で効果的な部活動等の実施を継続する</p>	<p>①生徒主体の生徒会行事運営を進める。 ①生徒会役員の後継者育成を継続する。 ②学校生活手帳を活用した時間管理、効率的な部活動等の実施を継続する。</p>	<p>①ﾏﾈｼﾞｱﾙを活用し、生徒会活動の自主的な運営を継承・改善。生徒主体の生徒会行事を目指す。 ①後継者候補の発掘と育成 ②学校生活手帳等の定期確認 ②部活動の隙間時間を活用した隙間学習の奨励 ②各部・各委員会の顧問教員による、生徒の意識刺激</p>	<p>①これまで整備してきたﾏﾈｼﾞｱﾙ・関係資料を再点検し、より一層自主的な生徒会行事の運営ができるように指導する。 ①後継者育成の定着を図る。 ②学校生活手帳の定期的な確認 ②隙間時間学習を奨励 ②各顧問・各担任が実力テスト等の分析結果を共有し多方面から生徒の指導支援を行う。</p>	<p>生徒会活動は、後継者育成等の課題はあるものの生徒の自主的活動が定着しつつあり、概ね目標を達成した。</p> <p>①生徒会役員自身が行事ｽｶｼﾞｰﾙ、実行委員会ｼﾞﾚｯﾄﾞ等を作成することにより、生徒主体の生徒会行事運営が進んだ。</p> <p>①新役員体制への引き継ぎは継続的な課題である。</p> <p>②教科担当、担任及び部活動顧問が実力テスト結果等を把握し、多方面からの指導を実施した。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>①3年間継続して生徒会役員ができる生徒を育成するため、早い段階での生徒会役員参加を促す。</p> <p>①引き続き、「学校行事の文化」、「部活動の文化」の継続・発展を進める。</p> <p>②完全下校19時30分を継続し、効率的な部活動の実施及び学習との両立の徹底を図る。</p>
4	<p>①本校での活発な教育活動について、これまで以上に地域、中学生、保護者へ情報発信するとともに、連携を深めていくことが必要である。</p> <p>②生徒募集活動においては、マンネリ化することなく、常に改善の方向を探りながら全教職員で取り組むことが必要である。</p> <p>③高い志を育み、家庭学習を定着させるためには、保護者との連携をより一層強化する必要がある。また、学校理解を促進するとともに、さらなる信頼確保が重要である。</p>	<p>①HP等、多様な広報による情報提供を継続・拡充する。 ①近隣の小中学校との連携を強化する。 ②中学校・学習塾等の高校説明会参加や訪問、中学校PTA・生徒の学校見学の随時受入、学校主催の説明会等を継続するとともに、新たな取組について検討を進め、戦略的・積極的な生徒募集に全職員で取り組む。 ③PTA本部役員の選出法を改定したことに伴う諸課題に対応する。 ③PTAと連携して保護者に学校行事を周知し、学校行事や公開授業・HR懇談会・保護者面談への参加者を増やす。 ③引き続き学校ｶﾝﾄﾞﾗｰを全戸配布し学校行事を周知する。 ③計画的に施設・設備の維持・修繕を実施する。</p>	<p>①HP更新、学校案内、ﾏｽﾃﾞｻﾞｲﾝの活用など、多様な手段で多面的な広報活動を引き続き継続する。 ①近隣の小中学校との連携事業を組織的・計画的に実施する。 ②中学校・学習塾等の高校説明会参加や訪問、中学校PTA・生徒の学校見学の随時受入、学校主催の説明会等を継続するとともに、新たな取組について検討を進め、戦略的・積極的な生徒募集に全職員で取り組む。 ③PTA本部役員の選出法を改定したことに伴う諸課題に対応する。 ③PTAと連携して保護者に学校行事を周知し、学校行事や公開授業・HR懇談会・保護者面談への参加者を増やす。 ③引き続き学校ｶﾝﾄﾞﾗｰを全戸配布し学校行事を周知する。 ③保護者アンケートにおける学校満足度9割以上を目指すとともに、学習環境向上の評価を得る。</p>	<p>①HPの更新回数、多様な広報回数を検証する。 ①小中学校との連携事業の回数や効果等を検証する。 ②学校説明会への出席者数、中学校・塾説明回数、進学フェアなどでの個別相談者数を確認し、新たな取組の参考とする。 ③PTA本部組織を改編したことの効果等を検証する。 ③保護者の学校行事への参加者数、授業公開やHR懇談会、保護者面談の参加状況を検証する。 ③保護者アンケートにおける学校満足度9割以上を目指すとともに、学習環境向上の評価を得る。</p>	<p>開かれた学校づくりについては概ね目標を達成した。</p> <p>①HP更新回数は減少したものの、部活動を中心に新聞報道が増加した。</p> <p>①HPのリニューアル及びメール配信の新システム移行を進めている。</p> <p>①隣接小学校との交流活動を拡充するとともに中学校への出前授業を新規に行った。</p> <p>②説明会参加者数は前年並みであったが、新規の部活動体験会、個別相談の機会の増加など活性化を進めた。</p> <p>③組織改編により理事会の活動をよりｽﾏｰｽﾞに進めることができた。創立50周年記念事業準備委員会を発足させた。</p> <p>③PTA行事への保護者の参加状況は前年度並みであるが参加者からは好評であった。</p> <p>③保護者アンケートでは、学校満足度が9割5分となり成果を十分にあげることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①HP閲覧数の確認について対応策を検討する。 ①HPのリニューアル及びメール配信の新システム移行・運用をｽﾏｰｽﾞに行う。 ①小中学校との連携について共通理解を得ながら推進する。 ②引き続き、個々の生徒募集活動をﾌﾟﾗｯｼｬｯﾌﾟしながら全教職員で取り組む。 ③創立50周年記念事業準備委員会、企画の具体的検討を進める。 ③引き続き組織編成の確立を進めるとともに、PTA行事の精選を含めた改善策の検討を進める。</p>

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	7名

学 校 関 係 者 評 価
実施日 平成30年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・この3年間で、自学自習の校風ができてきているという、「変化」が見て取れる。</p> <p>・早朝に登校する生徒も明らかに増えているようだ。</p> <p>・パソコンを使った授業、第2外国語の授業などを見ても、良い授業が展開されていると感じることができた。</p> <p>・保護者、生徒のアンケート結果からも、確実に良い方向に伸びており、上昇傾向が明らかである。</p>
<p>・本県は、近くに良い私立大学が多く、私大傾向が強いのも仕方がない面もあるのではないかと。国公立希望を実現するためには、保護者の意識にも働きかける必要があると感じる。</p> <p>・「子どもの進学を考える会」の参加者が増加していることは、良いことだと思う。</p>
<p>・登下校時に、声を出して挨拶をする生徒が増えており、地域の良い風景となりつつある。</p> <p>・様々な部活動が活躍しており、文化祭等でも積極的に、かつ丁寧な説明をしてくれるので好感が持てる。</p>
<p>・地域からは、人気が高く志望者が多いというイメージが定着している。</p> <p>・隣接小学校としても、地域連携はありがたく、小学生にとっては、あこがれの高校となっている。小学校側からも、高校生の「やる気」、「志」に良い変化を与えるようなお返しをしたいと思う。</p>